

## 第 44 回日本小児感染症学会

## 第 44 回学術集会レポート 表彰式

研究教育委員会委員長 森内浩幸

賞の内容について説明させていただきます。

Young Investigator Award (YIA) は、学術集会に筆頭演者として抄録を提出されたまだ受賞経験のない 40 歳未満 (翌年 4 月の時点で) の会員のなかから、毎年 3 名選んでおります。平成 20 年度までは、優秀演題賞として年齢制限や受賞経験の有無を問わずに選出していたものです。受賞者へは副賞として、次年度の Asian Society for Pediatric Infectious Diseases (ASPID) または Asian Society for Pediatric Research (ASPR) に参加し研究内容を発表するための補助金 (10 万円) を贈呈いたします。また、1 位選出の受賞者は、日本小児科学会が Pediatric Academic Societies (PAS) 発表者として派遣する活動に関して、本学会から候補者として推薦しています。

研究プロジェクト助成金は、小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に平成 18 年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが、一昨年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので、受賞者は 40 万円の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使途およびそれによる研究成果の概要を学会誌において報告し、また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。



授賞式の模様です。森島理事長の両脇に YIA 受賞者 3 名と研究プロジェクト助成金受賞者 2 名が勢揃いしました。本学会の将来を背負って立つ頼もしい面々です。

(左から) 木全貴久先生、原紳也先生、森島恒雄理事長、中野景司先生、斎藤有希恵先生、岡田清吾先生



岡田清吾先生は「気管支喘息モデルマウスにおけるインフルエンザ A/H1N12009 感染時の気管支肺胞洗浄液解析」で YIA を受賞しました。この研究は、インフルエンザ A/H1N12009 がどうして下気道に強い炎症を引き起こしたのかをマウスモデルで解明したものです。高いレベルの研究と評価され、今回最高得点での受賞でした。



齋藤有希恵先生は「サイトカインによる肺血管内皮細胞機能障害のメカニズム」で YIA を受賞しました。これもインフルエンザ A/H1N12009 の肺病変の病態解明を目指したもので、今回 YIA と研究プロジェクト助成金を合わせて、紅一点の受賞となりました。今後も「なでしこ」パワーを炸裂させて、活躍されることを願います。



中野景司先生は「QProbe 法を用いたマクロライド耐性肺炎マイコプラズマの臨床経過の検討」で YIA を受賞しました。臨床現場で大きな話題となった耐性マイコプラズマへの対応に期待もてるアプローチを開発されました。ウイルス研究が隆盛を誇るなか、マイコプラズマに関してニーズもレベルも高い研究を展開してくれました。



原伸也先生は「エンテロウイルス・パレコウイルスによる新生児および乳児期早期の発熱時における病態の検討」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。これも臨床現場で悩ましい感染症です。多くの施設の協力で、少しでも多くの症例が集まり、意義のある解析結果が出ることを期待いたします。



木全貴久先生は「基質拡張型βラクタマーゼ (Extended-spectrum beta-lactamases : ESBL) 産生菌による難治性尿路感染症の対策の確立 : Fosfomycin の有用性の検討」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。耐性菌感染の実態解明と対策を兼ねた研究で、やはりニーズの高い研究といえます。

2013年10月に札幌で開催される学術集会でも、きっとこれまで以上に素晴らしい演題が発表されることでしょう。若手会員の活躍が本学会を発展させ、子どもたちの健やかな未来を切り開きます。またピカピカの若手会員を次回も皆さんにご紹介できることと思います。

本年度も研究プロジェクト助成金にどしどしご応募ください。また YIA を目指して、素晴らしい演題をお出しください。札幌でお会いしましょう！